

共益法人 ベルリン中央学園だより

# 菩提樹

(リンデン・バウム)

二〇〇七年度第二号

通算第三十一号

## 創立十周年記念特別号

私、ベルリン中央学園補習授業校は、今年で十歳の誕生日を迎えました。多くの方々に愛され、かわいがられ、本当に大切に育てていただきました。この紙面をお借りして、お礼申し上げます。

さて、今回の菩提樹は、私の十歳の誕生日を記念して、私の敬愛する方々が、温かいメッセージを届けてくださいました。幼少でまだ何も分からなかった頃に、支え励まして下さった懐かしい方々から、今、私のために日々心を傾け、ご尽力下さる方々まで、どれも、これもが胸が熱くなるものばかりです。  
「悠久のかなたから、未来へ続く人の輪」をここにご紹介いたします。

# 10周年



発行

ベルリン中央学園  
補習授業校

編集

『学園だより』委員会

発行日

2007年11月24日

## 十周年に寄せて

### 外部からの「寄稿」

十周年記念特別号に寄せて

駐ドイツ日本国大使 高野 紀元

ベルリン中央学園補習授業校の創立十周年にあたり、小宮理事長、相賀校長をはじめとする貴補習授業校関係者の方々、保護者及び児童・生徒の皆様に対し、心よりお祝い申し上げます。また、これまでの同校の発展の陰には、歴代の学校関係者の方々、保護者の皆様のおかげです。一方ならぬご努力と献身があったものと拝察いたします。こうした皆様方のご尽力に対し、心から敬意を表したいと思えます。

海外に生活する日本人にとつての最大関心事の一つは、教育であると言われております。幸いベルリンは比較的治安も良く医療事情も進んでおり教育環境も整っております。そのような恵まれた環境の中で、貴補習授業校が、今年度創立十周年を迎えられましたことは誠に

に喜ばしいことです。貴校は平成十四年度から補習授業校として位置づけられるとともに日本政府の援助が開始されました。現在、幼稚部から高等部まで児童・生徒総数八十名以上を数える程になり、順調な歩みを続けていると承知しており、大変心強く感じております。

昨年六月にはドイツでサッカー・ワールドカップが開催され、世界中のサッカーファンの熱い視線がドイツ各地のスタジアムに集まりました。また、本年六月にはハイリゲンダムでG8サミットが開催されました。日本からは安倍総理大臣がドイツを訪問されました。このような首脳レベルの交流をはじめ、あらゆるレベルで日独対話が進むことで、両国関係が更に深まることを期待いたします。

ベルリン中央学園補習授業校は、創立十周年の年月を経て、当地の日本人コミュニティの重要な柱の一つとなりました。ベルリン中央学園補習授業校の益々のご発展を心よりご祈念申し上げます。

## 学園創立十周年記念に寄せて

外務省 中・東欧課  
地域調整官 深川 康

一九九七年春、私は本国からベルリンへ赴任しました。当時、私は総領事館で、近い将来に予定されたボンからベルリンへの大使館移転の準備を含め総務・官房的な業務を担当しておりました。そのため、同じ年に中央学園が創立されたという海外子女教育に関連し

た在留邦人社会の中の動きを全く存じ上げませんでした。

後年、大使館の移転と同時に総領事館の同僚と共に私も大使館員に編入された後、私の担当業務は大きく変わり、領事業務を担当業務の一部とすることとなりました。そのような次第で海外子女教育にも関与させて頂くこととなり、その頃から中央学園と関係の方々についても少しずつ私の耳に入るようになりました。

当時、中央学園の関係の方々がお持ちであった大きなご希望の一つは、公的補助の対象となる日本語補習授業校としての認定でした。ベルリンの在留邦人数は二千人に満たなかったと記憶しています。ご子弟の数は多くはありませんでした。しかも同一の都市で複数の補習授業校に補助が出ているのはロンドンとニューヨークだけであるという説明を本省から受けておりました。そのような中で現状を打破するのは至難に見えました。

しかしながら、当時の館長であった野村大使の考えは筋の通ったものでした。即ち、将来の日本を背負うご子息がおられるなら、日本語の教育環境を整備することについて公的立場にある者は等しく援助の手を差し伸べなければならない、というものでした。野村大使の考えは、本省との交渉においても、またベルリンの日本人社会との関係においても、揺らいだことは毛筋ほどもありませんでした。

その後、幸いに公的な補助が認定され、しかも本年度で創立以来満十周年をお迎えになったことを心からお慶び申し上げます。一つの教育施設を十年間に亘って運営するには大変

なご努力が必要であったことでしよう。関係の皆様のごこれまでのご尽力に心から敬意を表させて頂きます。

私が業務の上で中央学園の関係の方々にお会いするようになった後、折にふれ皆様方に申し上げ続けたことは、仲良く運営に当たって頂きたいということでした。この先も引き続き皆様仲良く運営に当たられ、中央学園が益々発展されんことを切にお祈り致します。

### ベルリン中央学園補習授業校創立十周年に寄せて

財団法人 海外子女教育振興財団  
専務理事 根道 博

ベルリン中央学園補習授業校が創立十周年を迎えられたことに対し、謹んでお祝いを申し上げます。

補習授業校の運営には多くの苦勞が伴います。スタッフや校舎の確保、安全対策、財務の健全化といった課題に心を砕き、諸官庁や近隣、保護者への対応にも細心の注意を払わなければなりません。東西ドイツの統一以来発展を続けるベルリンの地において、強い使命感を持ってこの困難な仕事を続けてこられた関係者の皆様に感謝を捧げますと同時に、次の十年に向けさらに発展してゆかれることを心より願っています。

「舞姫」「即興詩人」等の作品で知られる作家の森鷗外が、若き日にベルリンで学んだことはよく知られています。評論の分野でも多大な功績を遺した鷗外は後年、東洋(日本)と

西洋の両者にしつかりと立脚した複眼的な思考で物事に臨むことが肝要だという意見を述べていますが、日本を離れ異郷で学ぶ機会を得た海外子女の皆さんにはその素地が十分に備わっているといえましよう。ベルリンでの貴重な日々を大切に過ごし、未来に向かって大きく成長していただきたいと念じております。

末尾になりましたが、今後一層進む国際化の時代にあつて、真に力ある人材が貴ベルリン中央学園補習授業校から陸続と輩出されることを祈念いたしました。お祝いの言葉とさせて頂いていただきます。

### 祝辞

財団法人 日本漢字能力検定協会  
理事長 大久保 昇

ベルリン中央学園補習授業校の児童・生徒のみなさん、ならびに教職員・関係者のみなさま、創立十周年を迎えられましたこと、まことにおめでとうございます。母国日本の京都から、お喜びのみなさまにこころからお祝いのことばをお届けいたします。

ひとくちに十年といいますが、関係者のみなさまにはひとかたならぬ苦勞があつたことと拝察いたします。今では幼稚園から高等部までの児童・生徒数も八十人をこえるまでになり、海外に住む日本人として恥ずかしくない日本語のつかい手として、日本語・漢字の知識と文化・教養を身につけるとともに、地球船の乗員としていかに生きるかを学び、

教授されています先生がたの地道な活動とご努力に敬意を表します。

わたくしどもの「漢検」(日本漢字能力検定)が、みなさんの学習・教授に役立つことを願い、お力ぞえをいたしたいと存じます。十一年目の新しいご出発にあたり、遠いところからではございますが、大きな拍手をおくり、ベルリン中央学園補習授業校のますますのご発展を祈っています。

## 祝辞

財団法人 理想教育財団  
理事長 羽山 明

「創立十周年」記念式典の開催にあたり、心よりお祝いを申し上げます。遠く離れたベルリンの地にて活躍される、邦人家族の児童生徒への学校教育にご尽力されておられる、貴学園関係の皆様に対し、敬意を表する次第です。

当財団は、一九八四年設立プリントメディアによる情報伝達に関する調査研究と、「心の通い合うプリントコミュニケーションの創造」を主題に、活動を行っております。教師が発行する学級だより等通信の質を高めることを目的に、「育て！プリントコミュニケーション」コンクールを行っておりますので、積極的なご参加を頂ければ幸いです。

最後になりますが、日独友好の絆ともなる貴学園の益々のご発展とご繁栄を心から祈念し、お祝いの言葉といたします。

## 共益法人ベルリン中央学園補習授業校 創立十周年に寄せて

ベルリン日本商工会 会長 山室 啓介

このたび、ベルリン中央学園補習授業校が創立十周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

ベルリン中央学園補習授業校は、ベルリンにおける日本語による児童・生徒のための教育機関として一九九七年に設立されて以来、十年間にわたり児童・生徒の学力向上のために多大な貢献をされてこられました。ここに改めて衷心より敬意を表する次第です。

振り返りますと一九九〇年十月の東西ドイツの統一、ベルリンへの首都移転はベルリンの日本人社会や日系企業に大きな変革をもたらすことになり、それまでの「ベルリン貿易懇話会」は、一九九一年一月に「ベルリン日本商工会」として新たに出發いたしました。それ以降、本商工会は会員共通の利益に関する諸条件の解決と推進を通じて、日本とベルリンをはじめとするドイツとの間の通商の発展および親善の増進を目的にさまざまな活動を行ってきたところであります。また、本商工会が円滑に活動を続けていくためには、会員ならびに在留邦人のために整った教育環境を実現させることも重要な任務のひとつであります。

このような中で、ベルリン中央学園補習授業校におかれては、ベルリンの日系企業や在留邦人の子弟などを対象に充実した教育内容を提供すべく不断の努力をされてまいりました。その結果、現在では幼稚部から高等部ま

で生徒総数は八十名を超えるまでに成長し、また二〇〇二年度からは国庫補助金の助成を受けるに至りましたことは誠に同慶の至りであると存じます。

一九九二年以降、本商工会の会員数は残念ながら減少を続けてまいりましたが、このところの日本経済の回復に伴ってベルリンや周辺地域への進出を検討する日系企業も少しずつ現れはじめており、私どももいたしましては組織の維持・強化を図るために、今後も企業やベルリン関係当局への働きかけを続けてまいりたいと存じますので、よろしくご理解とご協力を賜りたく切にお願い申し上げます。最後に創立十周年の節目の年を迎え、ベルリン中央学園補習授業校が児童・生徒の教育のためにますます貢献されることをお祈りいたします。お祝いの言葉とさせていただきます。

## 創立十周年を祝して

ベルリン日本人国際学校  
校長 川崎 信幸

ベルリン中央学園補習授業校創立十周年を心からお祝い申し上げます。

十年にわたり、種々の制約の下、幾多の諸問題を克服しつつ、日本語を学びたいという児童生徒に対して、広い視野をもつ国際性豊かな人間の育成に努めてこられましたことは、歴代の理事会をはじめとする多くの関係各位のひとかたならぬご努力によるものと、心から敬意を表する次第であります。

今後、貴校で学んだ児童生徒がやがては日独友好の架け橋になることはもとより、広く国際社会で活躍し貢献できる人材になることを期待し切望して、簡単ですがお祝いの言葉とさせていただきます。ますますのご発展を祈念します。

## ベルリン中央学園創立十周年に向けて

### 初代理事長 ヘルマン・ゴチエフスキー

もう十年ですね。この学校を創立した当初には不安が盛りだくさんでしたが、子供たちの教育を第一な問題としている親たちの情熱により、学校の運営の経験がほとんどないにもかかわらず中央学園の創立が実現し、様々な困難を超えて、十年経った今日には前よりも盛んになっていると聞いています。これからも永年のご活躍を心より祈っております。

## 現理事から

### 挨拶

#### 理事長 小宮 尚子

お蔭さまをもちまして、本学園は今年度創立十周年を迎えることができました。これまでの、日本・ドイツの諸機関をはじめとする内外の皆様からの、温かいご支援とご信頼に厚く感謝申し上げます。

また、在ドイツ日本国大使館の高野大使を

はじめ、多くの方々からのご祝辞も頂戴いたしました。今回この「菩提樹」で紹介させていただきました言葉の数々によって、私たちは新たな一歩を踏み出す勇氣を得ることができました。ご多用中にもかかわらずご祝辞をお寄せくださり、心より御礼申し上げます。

さて、一九九七年に創立された本学園におきまして、私は四代目の理事長です。前理事長が国庫補助金を申請した際に、大使館の深川一等書記官（当時）が真摯に対応してくださり、野村大使（当時）が本学園をご視察くださいました。その結果、二〇〇二年度より日本の国庫補助金が配賦され、晴れて補習授業校として内外に位置づけさせていただきました。しかし、今日に至るまで常に順調だったというわけではありませんでした。それでも本学園を信頼し見守ってくださいさる多くの存在によって、私たちは勇気づけられ、まわりの雑音を気にすることなく、純粹に日本語教育の場として、学園の運営を続けることができました。

教員はこれまでの困難な時期でも、子供たちのために損得勘定抜きで学園を支えてくれました。そして現在、学園には子供への愛情と熱意に溢れた本物の教育者が揃いました。人材不足の折、このような幸運に恵まれたことは、学園にとって何物にも代えられない財産です。私たちは先生方を誇りに思い、また大変感謝しています。この気持ちこそが、理事会や学年会という名の下で学園運営に携わっている私たち保護者の原動力だと思います。これまでを振り返りますと、この十年間、本学園はいくつかの大きな困難に見舞われて

きました。国庫補助金が初めて配賦された翌年には、突然校舎移転を余儀なくされ、学園存続にも関わる緊急事態でしたが、現在のコメニウス校との出会いは、文字通り「禍転じて福となす」でした。その他にもいろいろな事件がありました。その度に学園内部は強く結束していったように思えます。また、現在に至るまでの本学園歴代の理事や事務職の方々には、その大変なご尽力に対し、改めて感謝申し上げます。

また、ベルリンはもとより、ドイツ国内における日本語の教育機関や日本関連施設、さらには日本から今回もご祝辞をくださった方々、そして日本の関係各省庁と大使館におきましては、それらのご支援があつてこそ今の学園があるといつて過言ではありません。これらのいろいろなご支援によって、社会的にも補習授業校として位置づけされていることを改めて認識し、学園関係者一同心より御礼申し上げます。

私たちは、これから新たな歴史を刻んでいく上で、今までの十年間で培われた内外の関係を大切にし、次の世代に引き継いでいく所存です。そして今後も、本学園で学ぶ子供たちの成長を温かく見守り、この学園を巣立つてゆく子供たちの将来が、日本とドイツの架け橋の一端となるよう、皆様方のご支援に報いたいと存じます。

最後に、これまでの十年間、本学園を支えてくださったすべての方々へ、今一度心より感謝申し上げます。そして何卒今後も本学園の教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 創立記念に寄せて

理事 岡坊 久美子

十年の月日を子供の成長に例えようと、この世界に生まれ出て母の腕の中で眠っていた始まりの時から、よろけながらも大地を踏みしめ、おぼつかない足どりでも進めることが出来、さらに年を重ねると、その足どりは確かなものとなり、時には転んで泣くことがあっても、歩けなかつた頃に戻ることはない。

学園が発足した頃、寺子屋のような授業形態であつたと聞いていたが、私自身また娘も、当然その頃の学園を知らない。主人と共に幾つかの学校の体験入学を参観し、そして娘の意見を反映し、この学園に通わせる決断をしたことを、いま充実感をもってかみしめている。学園の全ての先生方は、子供達の日本語能力を観察し、個々の学力向上に見合った教材を自身で作成され、この学園に命を捧げるほどの熱意をもって教育の現場で従事して下さっている。有難いと感謝している。そのお陰で娘の日本語の語彙は確実に増え、さらに発展し続けている。また友を通じ、学園を通じて彼女は人生を学んでいる。週一度の授業日、友に会うのを一日千秋の思いで待ちこがれている。友は母よりずっと力強い理解者だ。保護者たちは娘の成長を我が子の如く喜んでくれ、時には我が子同様に叱ってくれ、学園に通うすべての子供たちにそう接してくれる。多忙を極める私にとっては本当に心強い。

この六年間、理事会の一員として学園の運営の一環に携わって来た。ただそこに理事と

いう名を連ねているだけだが、学園に通う全ての子供達の為、さらに心地よい勉学の場に発展させ続けたいという願いだけで会員の皆さんと頑張ってきた。なぜなら、娘の在籍しているこの七年間、学園は子の成長の如く確実に発展して行ったからだ。その歩を私たちはさらに前へと押し進める責務がある。皆が子の通う学園がこうあつて欲しいという理想や願望を、皆と共にこの学び舎に通う子供たちを思い、この先も気を引き締めて学園を充実させて行きたいと思う。

この先の十年間、学園はさらに進歩を続けていくことをひたすら祈り、創立十周年を喜びたい。

## 中央学園十周年に寄せて

理事 内山 佳代子

ベルリン中央学園創立十周年を迎え、みなさま方とともに喜び申し上げます。

十年一昔。烏兔忽々の日々であつたように感じる一方で、思い返せば、学園には様々な思い出があります。現在、小学六年生になる息子と、幼稚部きりん組の娘がお世話になっていますが、学園に入会させていただいた当時、下の子はまだ生まれておらず、上がったの二歳でした。私もベルリン生活によく慣れてきたばかりの新米ママだったので、気さくなおしゃべりのできるアットホームな学園の雰囲気にとっても癒されたものです。

また、小正月会や運動会など時季に催される行事をはじめ、子供たちが持ち帰ってくる

節分や七夕などの時節柄の工作に、日本で住んでいるときより以上に日本の四季を感じる事ができました。子供たちにすばらしい日本語を教示していただけるだけでなく、「ベルリンの中の小さな日本」を味わわせてくれる環境づくりが中央学園の魅力でもあるでしょう。

これまで学園をささえてくださった方々のご努力に心から感謝するとともに、これから中央学園の温かな灯が輝き続けられるよう努力していきたいと思えます。

## 十周年に寄せて

理事 クス 八千恵

まずは、中央学園創立十周年おめでとうございませう。

十年といえれば一つの段階を終えて、また次のステップを上がろうとするような、軌道に乗らんと前進を決意するような時ではないでしょうか。これまで、実際の運営や教育に努力してこられた方々の並々ならぬ苦勞を感じさせられます。

私がこの学校と出会ってから、もう九年も経ちますが、まず、この学校の良さは何かと尋ねられたら、最初に即答で答えられるのは先生方の熱心さではないでしょうか。この熱意は何処から来るの？と聞きたいほど一生懸命に子供に対してくださるし、それぞれ一人一人の子供の個性をよく見て、信じてくださるところだと思えます。私などは、そこからわが子を見直したり、反省させられたりして

います。  
今年から私もスゴイ微力なのですが、理事として参加させてもらうことになりました。理事会などに出てみてビックリするのは、また理事の皆さん達も同じで、熱心なんです。アツイです。こんな私に何が出来るのかなあと思いますが、なんとかやれるだけやってみようと思っておりますので、よろしくお願ひします。

### 中央学園創立十周年に寄せて

理事 小飼 志保

ベルリン中央学園創立十周年おめでとうございませう。そして保護者の皆様にも、心よりお祝ひ申し上げます。こうして皆様と共に十周年を迎えることが出来たのも、校長先生をはじめ諸先生方、ご家族の方々や多くの地域の皆様のご指導やあたたかい応援があったからこそです。沢山の方々のご協力によってこの日を迎えることが出来ました。私も皆様と共に保護者の一人として感謝申し上げます。と思います。

私は本年度から財務副理事として理事の仕事をしていただいておりますが、一会員であった頃は、授業料さえ払っていただければ学校側が全てやってくださるとばかり思っておりました。理事会に参加してからは、理事会と学年会を運営する保護者が教員会と一緒に中央学園を運営しているのだと理解致しました。理事という少し大げさな名前が付いておりますけれども、実際は保護者の代表です。

この学園がこうして発展してきたのも、先生方および保護者の皆様の努力と、子供たちに対する愛情の一言に尽きると感じております。創立十周年を機に、ますますの中央学園の発展のため保護者の皆様にも学校の運営に積極的に係わっていただき、中央学園を皆様と共に育てていけることを願う次第です。

### 原点

理事 後藤ヒンツェ 裕起子

まず、創立十周年の佳節を迎えるにあたり、この十年の間、本校に温かく手をさしのべて下さった方々に、衷心より御礼申し上げます。ひとえに皆様の日本語教育への情熱により、ここに、ベルリン中央学園の幼児教育から高等教育までの日本語教育の基礎ができ、我が校の特殊ある一貫教育ができ上がりました。

この十年の軌跡を見るならば、疾風の日があり、怒濤の夜もありました。資金もなく無の状態から、ただひたすら子供達の喜ぶ顔がみたくて、徹夜越して運動会の小道具を作ったり、小正月会のビュッフェ用の食事を早朝から用意したり、大変なこともありましたが、教師、親、子供が一丸となって朗らかに愉快に過ごした十年間でした。

新しい展望を広げて行くための準備の時、この十年であったならば、充分時は熟していると言えるでしょう。時とともに、加速度を増しながら、さらなる十年先を想うと、大いなる希望が湧いて参ります。どんな素晴らしい教育内容をもった学校になるのかと……

所詮、教育は一つのロマンだと思ひます。私達は教育革命の先駆者としての誇りも高く、子供達が喜んで学習に取り組んで行ける教育環境を作るために、ひたすら走り続けて参りました。まさに、ここに教育の真髄があると確信致します。革命の革命たる動機があります。

権力でも財力でも名譽でもかなわない、理想を抱いた、横溢する人間の力―それを体現してきたこの十年でした。この革命の河の流れに身を委ねている限り、決して衰えることなく、さらに大きなロマンに向かって、成長して行けると信じています。

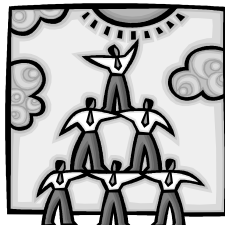
この十年間、常に行き詰まったら帰ることのできる原点を持つことができたことに感謝致します。時とともに、革命の厳しき河は流れる、今日もそして明日も。

### なおいっその充実へ

理事 生田 千秋

これは心から慶賀すべきこと。中央学園が創立十周年を迎える。

一昔まえの創立は無からの創造ではなかつたにしても、文字通り、小さく生んで大きく育てることの好例になるかもしれない。当時、小さくとも、子供たちを主体とする新しい環境を必要としていた。日本語および日本文化関連の教育の建て直しが要求されていた。創立の趣旨を理解し、それに賛同する保護者たちは、言われなき中傷と卑劣な脅しによく耐えてくれた。そして意欲ある、優れた教師た



ちがこれに応え、薄給をも、ものともしなかつた。学校を軌道に乗せること、そののみに意を傾けた。くわえて、その後の歴代の理事長たちおよび、当時の事情に理解を示し、支援してくださった大使館の方々のご尽力により、今日がある。創立メンバーの一人として、当該のかたがたに深くこうべを垂れ、心から感謝申し上げたい。

こうして十年を経て地歩も固まった。おかげで、子供たちを「路頭に」迷わせないで済んだ。むしろ、立派な教師陣の献身により、彼らは生き生きとして中央学園に通っている。また保護者たちは、異国にあつて、自分の本来のことばと文化を次の世代に伝え、国を越えた人と人との交流に貢献したいという使命に燃えている。ユニークな学校新聞「菩提樹」も、ひき続き歩を共にしている。中央学園が今後とも、なおいっそう優れた教育の場となることを期待してやまない。

## Lobgesang und Gedanken

**Gerd Ulrich Bormann**  
Stellv. Vorsitzender

Ich möchte zuerst einmal zu der Grundidee der "Zentralen Schule für Japanisch" und ihrer über die Dauer von 10 Jahren erfolgreichen Vermittlung in der Schule gratulieren, dies als zur Zeit einziges Mitglied im Vorstand, das nicht japanisch ist. Meine Frau sagt immer: "Du bist ein in einem Deutschen Körper versteckter Japaner". Was steckt hinter eine solchen Aussage: In jedem Menschen, gleich welcher Rasse und Herkunft, gibt es ein mit den Anderen gemeinsames Fühlen, Denken und Entwicklungspotential. Die Gründer dieser Schule und die Eltern, die Zusammen mit den Lehrern diese Schule tragen, sind aufgrund dieser Idee zusammengekommen und wissen, daß auf der einen Seite der Japanische Teil der Kinder, die in mindestens zwei Welten, der Deutschen und der Japanischen leben, und eventuell noch ein dritter des Elternteiles, der weder deutsch noch japanisch ist, soweit gefördert werden muss, daß für späterhin eine Entscheidung zu einer der möglichen Staatsangehörigkeiten verantwortlich wird. Dieses jedoch auf der Basis eines deutschen Umfeldes, in das sich die Kinder vollkommen integrieren sollen, um den Anforderungen der Schule und des in Deutschland üblichen zwischenmenschlichen Umgangs und eines möglichen Berufsweges gewachsen zu sein. Die Suche nach diesen beiden Teilen entsteht zuerst einmal in der Familie, mit allen Chancen und Konflikten, und kann in der "Zentralen Schule für Japanisch" nur ergänzt und weitergeführt werden, immer unter der Prämisse, keine Parallelwelt zu schaffen. Ich freue mich für diese Schule, daß wir in diesen 10 Jahren Wege gefunden haben, welche die Kinder an das Japanische in Sprache und Erleben heranführen, ohne Japanisch zu "tümeln". Wer einen langen Auslandsaufenthalt gemacht hat, kennt sicherlich die Gruppen einer Nationalität, die das Brauchtum im Ausland so pflegen, wie sie es in der Heimat nie gemacht hätten. Wir haben das Ziel, die Kinder so zu erziehen, daß sie das "Japanischsein" und dann erst das "Japanischtum" in sich suchen und finden wollen, innerhalb dieser 10 Jahre erfolgreich umsetzt. Hierauf bin ich an diesem Jubiläumstage stolz.

## 現教職員から

### 十年間の思い

校長 相賀 由美子

今から十数年前、家庭だけでの子どもの日本語教育に行き詰まりを感じ、それでも日本語を断念できずにいる母親たちがいた。彼らは、経済的なもの、地理的なもの、国際家庭の問題、国籍の問題、子どもの日本語力などの様々な事情で、公機関での日本語教育を子どもに受けさせることが難しい人々であった。そのような事情を抱えている人々は、当時の日本人社会の中では少数であり、個人的なことでもあったため、企業を中心とした日本人社会からは孤立して生活していた。そんな人々の声が、人を介し徐々に寄せられ、集まったのである。

「寺子屋を開こう！」誰かが教会の会堂を借りられるように尽力してくれた。あるものは、手作りの黒板を作ってくれた。あるものは、教材を集めてきてくれた。会堂を借りられる条件は会堂の掃除。母親たちは授業中、音を立てないように、会堂の掃除にいそしみ、仕切りはついていたのみの教室で、教師と生徒は頭を寄せ合って勉強にいそしんだ。授業後は、ドイツ人の父親たちと教師を中心に、教育環境を整えるための組織作りを、夜を徹した。「あきらめかけた夢を実現させられる」と希望に胸が膨らんだ人々のパワーは、ただ「すごかった」の一言に尽きる。寺子屋開始から

三ヶ月で、この小さなグループは共益法人となり、テンペルホフの小学校の校舎を借りられるようになった。そして、口伝えに子どもたちは、どんどん集まってきて、気がつくとも子どもの数は倍になっていった。

第一回総会が開かれた。「どんな学校にしたいか。」これが一番のテーマだった。「すべての子どもが、平等に母国語教育を受けられる権利を保護者と教師が一体となって守ってあげる学校にしたい。」満場一致だった。その基本方針をもとに、定款、運営規則が出来上がった。そして、その総会で、現在行われているすべての行事の原型が話されたのである。

一年目の合宿は、クラドールで行われた。母親たちは食事の準備、運動会の鉢巻や道具作り、父親たちはキャンプファイヤーの準備とほぼ全員が家族参加の楽しいものだった。その年の最後は、高学年の学習発表会、クリスマス会で締めくくり、お互いを慰労しあった。また、教師は年明けの小正月会のために、夜を徹して準備をした。現在も使われている獅子舞の獅子などは、その時に製作したものである。さらに、特筆すべきことは、現在も実施されている漢検は、なんと創立時から絶やすことなく続けられているのである。「ベルリンに漢字検定のチャンス」との声から、本校が協会側に掛け合い、漢検をベルリンで実施できる運びになった時の感動は、今でも胸が熱くなる。

その後、紆余曲折はあったものの、本校は設立時のスローガンを忘れることなく育ってきた。それは、熱い保護者たちと教師たちが子どもたちのためにできることを模索し続け

てきた結果だと思ふ。

創立時にいた子どもたちは、毎年のように卒業していく。そして、それと同時に当時、情熱を燃やした保護者たちも本校を卒業していく。でも、次の世代が確実に、大切なことを継承し、その情熱を傾けてくれている。本校は、十年の間にかかわったすべての人々の手のぬくもりで出来上がった学校である。その思いは唯一つ「子どもたちのためにできることをしたい。」親たちと教師の願いは、尽きることがない。

### 一期一会

教員 近藤 崇子

十周年、おめでとございます。

私は、この学校に勤めて七年なので、学校の歴史の大半を共に体験してきたことになりました。初めは任された授業のことで頭がいっぱいで、周りを見る余裕もなかったのですが、最近少し余裕がもてるようになりました。

何より私がこの学校に「ハマッて」しまった理由は、相賀校長の教育理念です。こうでなければならぬという「型」に子供をはめようとするのではなく、それぞれの子供にあった「型」を作ればいいのだと言われました。

だから、本校の教育課程も授業内容も、毎回試行錯誤を重ね、対象の子供の日本語力や環境を考慮した独自の工夫がなされています。それを作り上げるのは容易なことではなく、私も悩んだり葛藤したりしながらやってきました。



そんな中、支えになっていたのは、信頼できる仲間がいたからだと言わずにはいられません。一人ではできないことも、皆で協力して可能にし、常に改善策を考えながら一歩一歩、歩んできたように思います。「常に子供の視点に立ち返る」根底のところまで一致しているこの仲間との出会いは、私の生涯の宝となるでしょう。

この学校の性質上、子供たちとの出会いは幼児期から青年期にまで及びます。みるみる成長していく子供たちが、いつも変わらぬ笑顔を見せてくれる、その笑顔に元気の素をもらいながら今後も努力を重ねたいと思います。

### 三つの願い

教員 小栗 つかさ

教員としての願いはなんと言っても、知的好奇心の旺盛な生徒に恵まれることであろうか。そして、彼らを理解するための心の目を養い、子供達の知的欲求を満たすための技術を常に磨いていきたい。

学校には、今まで同様平和で、外部に対して開放的な場所であり続けてもらいたい。そして何よりも、子供達にとつて学ぶことを強いる場ではなく、心の拠り所となり、卒業した後も好きなきにまた来たい、と思われるような存在であり続けて欲しい。

最後に子供達へ願うのは、強い人になってほしいということだ。学年が上がるに従って日本語を勉強し続けることはますます困難になるようだ。だからこそ、日本語習得の必要

性を各々にしつかりと自覚してもらいたい。また、一社会の中で周囲の人間とはどこかが「違う」ということは（そのことに気づくことと自体、辛いことも知れない）、風当たりが強いということでもあるのだろう。そんなときは、仲間がいることを思い出してもらいたい。

### 十周年に寄せて

教員 有馬 昌美

私が小学校四年生のとき、私に通っていた小学校は創立十周年を迎えた。小学校は私より一歳年上だった。ベビーブームの最中と言うこともあり、全校児童数は八百人前後。中央学園の十倍近い規模だ。

当時の記憶はあまりないが、覚えていることは、運動場に児童全員で人文字を作り、航空写真を撮影したこと、創立記念日の式典当日は鳩と私たちのメッセージをつけた風船を飛ばし、その後、PTAによる模擬店を見て歩いたことだ。ちょうど担任の先生が式典担当だったらしく、「プレッシャーで夜も寝られない」と言うのを聞いて、子供心に「十周年というのは大変なものなのだな」と思っていた。

そして今度は教師として、中央学園の十周年に立ち会う。規模は違っても、十周年という重みは同じだ。

中央学園にお世話になって今年で四年目。思えば学園の歴史の約三分の一を見ているわけだ。学園創立当初は小規模な、寺子屋のよ

うな状態からスタートしたという。十周年を迎える現在、ドイツの補習校の中では中規模校と言われるまでに成長した。

中央学園は十年目だが、わたしはまだ補習校教師として四年弱。まだまだ教師としてはひよっこだ。授業の後は毎回、「この部分をこうすれば良かった」などと反省することしきりである。この先何年、この学園にお世話になるかは分からないが、一年一年着実に成長し、補習校教師として十年目を迎えたとき、この学園と同じだけ、大きく（体重は減っていてほしいが）成長できていればと思う。

### 十周年に寄せて

教員 松田 咲樹

ベルリン中央学園十周年おめでとうございます。様々な苦難、紆余曲折を乗り越え、発展した十年だったと伺っております。十年と一口に言えば早いものですが、私の十年前から今までの変化を考えると、さぞ長い道のりだったんだろうなあと思いを馳せています。

私が四月に着任してから早いもので半年が過ぎました。その中で様々な行事などを経験し、学校の様子がようやく見えてきたところです。

この中央学園の最大の強みは、家庭的な雰囲気があることだと思います。「学校」なのに日本の学校とは違う、また塾とも違う、お互いに助け合い生活している「大家族」のような集まりと言えるのではないのでしょうか。学習面だけのケアではなく、子どもたちが何か

抱えている時には教員、他の保護者も素早く察知し、声を掛けてあげる。そして今どんな困難に立ち向かっているのかみんなが状況を把握している点などは本当に素晴らしいです。私自身も、皆様に支えられていることを実感している一人です。教師としてのみではなく、ベルリンで生活する日本人として、保護者の方々から配慮やアドバイスを頂き、本当に心強く感じています。

今後、中央学園また保護者の皆様には様々な形で世話になると思います。まだまだ関わり始めたばかりですが、共に歩み成長できればと思う次第です。これからもよろしくお願ひします。

### 記念式典準備をしつつ

事務 大井 裕見子

この菩提樹十周年記念特別号が発行される日、理事や教員の方々を中心となつて、長い時間をかけて準備してきた十周年記念式典が開催されます。

四月からこの中央学園にお世話になり始めて以来、皆さんがこの節目となる一大行事を成功させるべく、熱く議論を戦わせ、あるいは準備に汗を流す姿を目の当たりにしてきました。理事や教員はもちろんのこと、それ以外の会員の方々も、式典準備や当日の役割分担、記念文集や児童の発表に必要な小道具の作製など、快く手を貸して下さっています。そして、子供たちも相当ハードなスケジュールであるにもかかわらず、通常の授業に加え

て、式典での発表の練習に日々取り組んでいます。その子供たちへの教員陣の指導も、いっつも増して熱を帯びてきているようです。

十周年記念文集やこの「菩提樹」のため、学校内外の様々な方々から、お祝いのメッセージをいただきました。取りまとめをしながら、学校創設からの道のりがいかに大変なものであったか、そして十周年を迎えた今の中央学園にいかにか大きな期待が寄せられているか、ひしひしと感じられました。特に中央学園の創成期を知る方々の文章からは、この十年間の重みが伝わってきます。

式典準備のラストスパートに入った今、日々の業務は少しばかり忙しくなりました。それでも、教員、理事、保護者、そして生徒の皆さんの熱い想いを感じるにつけ、今この時に中央学園にかかわることができてよかった、と心から思います。

学校創立十周年、おめでとうございます。

## 学年会から

学年会から

学年会委員長 ギュンター 律子

学年会の仕事に携わるようになり、改めて当学園が多くの人々に支えられていることに感動する毎日です。

子供達がベルリンで日本語を学習するために整えられた環境と十分な教材を得ることが

出来るのは、決して当たり前のことではありません。すべての子供達に全教科の教科書を無償で手元に届けてくださるばかりか、国庫補助金で運営を援助して下さる日本国政府および海外子女教育振興財団様、当学園行事に必要な大道具などを快く貸し出して下さる日本人学校様、お互いに切磋琢磨しよい刺激を与えていただいている、もうひとつの日本語補習授業校様、整えられた施設を提供してくださるコメニウス学校様とシャルロッテンブルグIIヴィルマースドルフ区様、無償で経理をして下さるTOBA会計事務所様、印刷機、図書の本などを無料でご提供くださる理想教育財団様、漢字勉強の参考書や問題集を無料でご提供くださる漢字検定協会様に、心からお礼を申し上げます。

そしてまた、外からはうかがい知ることのできない理事の方々のご苦勞を、学年会の仕事を通して、まのあたりにするようにになりました。私達がお世話になっている外部の方たちとの渉外に当たられている理事長、会員の方々のために何とかして低予算で押さえ、なおかつ高度な教育現場を提供しようとやりくりをされている財務の方々、ドイツの公的機関との折衝に当たられているその他の理事の方々。これらの仕事は無償の奉仕であり、時として夜を徹することもあります。改めて理事の方々にも厚くお礼を申し上げます。

また、先生方や理事の方々のご苦勞をご存知の会員から、自主的に「私達にも何かすることはありますか？」とおっしゃってくださるお言葉に、私もおんぶにだっこではいけない、と反省しきりです。「日頃なかなかお手

伝いできないので、ピュッフェのお料理は任せてください」、「行事の会場作りには、主人を行かせます」、「行事で通訳、翻訳をします」などなど、皆様の温かいお言葉に、心から謝意を表します。

当学園が、こうして十周年を迎えることができましたのも、先生方の子供達への愛情はもとより、こうした皆様のご尽力とご配慮、ご奉仕の賜物と思っております。子供達の本語教育の現場がますます充実したものととなりますよう、これからも皆様のご協力をお願い申し上げます。

## 祝 十周年

学年会副委員長 日高 恵

十周年記念おめでとうございます。十周年と言えば、KI.KAも今年で十年目を迎えるところです。ご存知の方も多いと思いますが、KI.KAはARDとZDFが共同出資・制作をして、十三歳までの子供番組専門のチャンネルです。戦闘・暴力シーンなども無いアニメや工作などのお役立ち情報も盛りだくさんで、大人も楽しめます。

息子は、ついこの間までこのKI.KAのアニメを中心に見ていましたが、最近では子供向けニュース「Logoi」を楽しみにしているようです。普通のニュースを子供向けに分かりやすく説明している番組です。それだけ、興味の対象が変わったということでしょうか。

同番組と同様に、息子がお世話になっているものが中央学園でしょう。順序から言う

逆ですが。六年前テンペルホーフに中央学園があった頃から通っています。

KI.KAが設立当時から番組構造を發展させ、チャンネルとして成熟してきたように（放送開始当時とても古い番組が中心で、日本ではありえない！と感動）中央学園も様々な変化を経て發展してきました。学校の引越しだけでなく、ベビーサークルのお歌やうさぎ組の開設は、その良い例でしょう。

そのような変化の中で、学校・保護者が協力し合いながら、子供達に日本語を学ぶための最良の環境を与えようとする姿勢は変わっていないのではないのでしょうか。

その皆さんの努力と勇氣に感謝すると共に、これからの發展を心よりお祈り申し上げます。



## 十周年に寄せて

ここにこ組保護者代表 遠藤 千重子

昨年の九月にベビーサークルに入会して、ちょうど一年たちました。乳母車を押しながら、恐る恐る地下鉄に乗り、やっこのことなどどり着いた中央学園の最初の日のことを覚えていきます。しかし着いてみれば、親切な方々に声をかけていただいて、ここへ来てよかったですと思いました。それ以来、皆さんとの楽しいお付き合いが始まり、外へ出るのが怖く

くなり、乳母車を押しして、どんどん出かけるようになりました。育児は、どのお母様方（もちろんお父様方）にとっても、大変なものです。同じ悩みを持つ皆さんのおしやべりはとても役に立つものです。ドイツに暮らして、なかなか話すことのなかった日本語を使えるのは、自分にとってもうれしく、また子供にとっても大切な教育です。外国に暮らし、ハーフの子供を育てるのは、簡単な事ではないと思います。日本人と外国人の子供をハーフ（半人）となぜよぶのかわかりませんが、ハーフの子供たちはダブルの文化を学ばなければなりません。ドイツ人としても、日本人としても生きていけるように教育しなければなりません。これはもちろん、ハーフでなく、日本人のご両親をもち、ドイツで生活している子供にとっても同じですが。私が中央学園のベビーサークルに入ったときに期待したものは、やはり自分ひとりでは無理な日本の教育です。言葉だけでなく、文化を学び、日本語をしゃべるお友達を持つてほしいと思います。今、ベビーサークルはギョーターさんのお歌の授業があります。日本の歌は、日本語を話すのに大切なスタートだと思っています。ひよこ組からは本格的な授業があるそうなので、とても期待しています。

## 褒めて伸ばす教育

ひよこ組保護者代表 森本 雪子

小さな子供と過ごしているとふと考えさせられる光景に出くわすことが多い。小紋（十

一月で三歳になる長男)がまだしゃべり始めの頃ひとりで積み木を上手に積み上げると、「Bravo!」と言って手を拍いて喜んだ。こちらが「ありがとう」と言うと、嬉しそうに自分の頬をなでた。まだ歩き始めの言葉をしゃべらない子が、上手に歩けると手を拍いて喜んでいたのも身近に見てきた。

自分を素直に褒めてあげる、ということが、小さな子供にとってこんなにも自然で本能的なことなのに、大人の世界では滅多に見ない。でもそれは長い人生を歩む中で、時として必要なことではないかと思う。自分がダメな時、褒めてもらいたい時に、必ずしも人は褒めてくれない。そういうときに自分で自分を褒めてあげられることが、その人の成長過程での次への大事な一歩につながるのではないかと思う。でもそのためには、いっどんなときでも、誰にも侵されることのない、「深い静かな自信」、「安定した心」が子供の内面から育たなければいけない。これは乳幼児期にすでに芽生えていくものだそうだ。生まれた直後から始まる授乳を通して与えられる母親の愛情と、肌で直接感じる温もりと安心感が、自己への愛情と安定した心の成長に大きく関わっていくという。

中央学園の先生方は「褒めて伸ばす」教育をしてくださると思う。それはよくありがちな「抑えて叩き込む」教育に比べ、子供一人一人の内面に潜むものを見出し、どうそれを伸ばしてあげるかを考えなければいけない生徒のその時々能力だけでなく、一人一人の成長過程も評価できなければいけない。容易なことではないが、そういった熱心で心の

こもったご指導が、将来躓いた時に、自らの良さを見つけ出し、それぞれの夢に向かって歩き続けられる強い人間を育てるのだと思う。

### 開校十周年に寄せて

つとぎ組保護者代表 宮崎ケイラー 彩乃

子供がまだ一歳にならない頃、日本語会話をたっぷり聞ける環境を与えるため、そして親の私が日本語で子育ての話をしたくて、ベビーサークルに入会、以来三年半お世話になっています。

子供達にとって、中央学園に来ることは、授業の楽しさと友達と遊ぶ喜び、新しい本との出会いを意味しているでしょう。息子も、本の一ページ目をめくったとたんに広がる未知の世界の味をしめたのは、何ととっても図書館のおかげです。先生の紙芝居や読み聞かせにも、張り付くように聞き入り、そこから様々な言い回しを吸収してきました。この国で、外国語である日本語をこんなに恵まれた環境で楽しく身に付けられるのは、本人がそのことにいつ気付くかわかりませんが、本当に幸せなありがたいことです。

この夏日本に長期滞在した折、同年代の子供達と遊ぶ機会が何度かありましたが、彼らの早口でませた、時にならぬ乱暴な言葉遣いに、息子はギョツとしていました。自分では立派に話せているつもりでも、理解してもらえないように表現できない時もあり、初めて何かギャップのようなものを感じたようです。親としては、今のまま丁寧な日本語を学び、

先生に対する敬語も身につけてほしいと願うところですが、同時にくずれた日本語会話を理解できることも、もしかして自信につながるのかも…と考えさせられてしまいました。

最後に、この十年間、いつも手作りで試行錯誤しつつ授業や行事を進め、数多くの子供達に日本語を操る術と自信を与えてこられた先生方に、心から拍手を送りたいと思います。

### 十周年に寄せて

ぞう組保護者代表  
シュタインヴェーデル 由加里

十周年おめでとうございます。この十年大変なことだったと想像いたします。

私が、ドイツへ来たのも約十年前です。しかし、この中央学園が大きく成長したように、私のほうも成長してればよいのですが、未だにドイツ語もろくに出来ず、毎日だからと過ごしています。まあ、この十年の間に、息子一人を生んで、中央学園との出会いがあり、今まで日本人の方は殆ど知り合いがいなかったのに、こんなにたくさん日本人の方と知り合えてとてもうれしく思っています。

息子は、父親が仕事で忙しく、殆ど私しか接していなかったもので、今でも日本語を話すほうがドイツ語で話すより上手です。ただ、机に向かって、お絵かきするとか、ひらがなを覚えるとかが嫌いで、先生にも御迷惑掛けしています。先生から色々ひらがなの勉強道具をお貸ししてもらっているのですが、ふざけてなかなかやろうとしません。これからの学

校での日本語の勉強のことを思うと、大丈夫かな、私もしんどいなあと思っています。親切で、生徒一人一人のことを、本当に真剣に考えてくれている先生方の期待にこたえるよう、息子にももうちよつとがんばって欲しいです。

今度の十五周年（？）のときの息子の成長ぶり、と、私の成長ぶりが楽しみです。これからも、色々と迷惑おかけすると思いますが、よろしく願いいたします。

### 十周年記念に寄せて

きりん組保護者代表 山本 佳代

私がアンナをつれて入会した二〇〇一年、中央学園はまだテンペルホーフにありました。現在のようないな教員室はなく、がらんとしたかなり大きな待合室があり、その中心部のござが敷かれているところがベビーサークルの場所になっていて、それを囲むような形でたくさん椅子が保護者用に置かれていました。そして、その部屋にアコーデオンカーテンで仕切られた、日当たりが良いとは言えない一角があつて、そこに小さな台所がついていました。

図書室は地下の倉庫でした。初日に、当時理事長でいらした加登さんがそこを案内してくださいました。蛍光灯のスイッチを入れながら「いつかちゃんとした図書室が欲しいのだけれど。」とおっしゃっていらしたのを覚えてます。とても明るい雰囲気な学校でしたし、私も入会したばかりということもあつて

全く気にならなかつたのですが、今あらためて当時を振り返ってみると「うちは新婚だからまだ揃っていない物がたくさんあるのよねえ。」という状態だったのかも知れません。

現在、中央学園にはベビーサークルの部屋もござつぱりとした図書室もあります。過去を懐かしく思うとともに、私はそのことをとても誇りに思っています。

開校十周年、おめでとうございます。

### 十周年記念について

小学一年保護者代表 フェヒナー 弘子

ベルリン中央学園は、今年十年目を迎える。十年目という節目は大変おめでたい。これまでの色々な歴史を振り返り、先生方を含め保護者の方々はとても感慨深いことだろう。

以前相賀先生が、この学校はたくさんの人々からお世話になって成り立っているとおっしゃった事がある。そもそも教育とはいろんな人の支えにより成り立つものである。

子供を育てることというのは一人ではできない。自分が初めて子供をもって思い出した事は、自分が小さい頃経験した父や母からのしつけや学校の先生、近所のおばさん達からの忠告である。娘達がいたずらした時は、ああそういえば私もいたずらしてこんな風にならされたとか、フラッシュバックのように鮮明に蘇ってくる。そうしてまた、同じようにきつと娘達も自分の子ができた時、今の私みたいに色々と思ひ出しながら、子育てしてゆくのだろう。そう考えると教育するというの

はものすごく責任重大である。その重い役割を背負っている中央学園の先生方には、とても感謝している。

そもそも私がこの学園を好きな理由は、先生方に情熱があるからだ。先生方が語る言葉には、子供達への思いが見える。人は「熱」に弱い。たとえ立て板に水のように教育論を立派に語っても情熱がなければ人は集まらない。この学園にはそれがある。熱い思いによって人が心を動かされるのは、今も昔も変わらない。いつまでもこの中央学園がホットでいつづけることを願ってやまない。

### 十周年に寄せて

小学二年保護者代表 川面 麻希

息子が中央学園にお世話になり二年が経ちました。二年があつという間でしたのに、中央学園は十年たつのですね！十年一昔というように、いろいろなことがあつたと思います。七歳で入園した子が十七歳。ピチピチのギャル、ギャルオ（おつといけない）ではなく、青年に成長したことでしよう。

親御さんも、毎日が宿題との戦いだったと思います。そしてこれからも…。

この間、息子に「あとどれくらい、日本語に行くの？」と聞かれ「ずつと！」とすんなり答えた自分がいました。ずつとずつと、あとどれくらい送り迎えるんだろう？という疑問が頭の隅によぎりましたが、息子が一人でいける日を夢見つつ毎回足を運ぶしだいでございます。息子よ〜〜一人で

るようになっておくれ〜。

おっと話がそれてしまいました。

十年前、私は妊婦でした。そのころに中央学園ができたのですね。時を感じます。そして、十年経ちますと息子もギャルオになります。そして、私は：ギャルには戻れない。

ともかくにも、息子がおばあちゃん、おじいちゃん、いとこや友達と日本語で話ができるのは、先生方のおかげです。ありがとうございます。

そしてこれからも、先生方、理事会の皆様末永くよろしくおねがいたします。

## 十周年を迎えて

小学三年保護者代表 山尾 真知子

私達が中央学園に来てから、六年の月日が流れました。当時、おなかの中にいた下の子ども、今では立派に（？）ひらがなが書けるようになり、月日が経つのも早いものだな、と感じております。

日本人の両親を持ち、家では日本語だけの生活を送っていると、日本語での会話はもちろん、読み書きも自然に身に付くものだと思う。今では、私が一喝するまでは、姉妹でドイツ語で会話している毎日です。小学三年生の上の子は当初、毎日、毎日繰り返し見ていた「アルプスの少女ハイジ」の影響を受け、母親の私と違う、ロマンティックな標準語を巧みに操る乙女に育っていく姿を見ると、ハイジに完敗した気分です。

先日、親子三人で買い物をしている途中、下の子が買い物カートにぶら下がり、降りようとしなかったもので、先を急いでいたせいもあり、自分が思うよりいらだつていたのでしようか、「ちよつと、さばる(ぶらさがる)のやめて！」と方言丸出しで怒鳴ってしまいました。その時、下の子の顔に浮かんだ困惑の表情。ママが怒っているのはわかるのだけど、何の注意されているのかわからない。自分がどういった行動をとるとママが怒らないのか、小さな頭で一生懸命考えていたのでしよう、最終的には半笑い、という残念な結果になってしまいました。

ここ二、三年で生活スタイルががらっと変わってしまった、私と過ごす時間より、学校の友達と過ごす時間が増えてしまったので、何らかの変化が訪れると思っていたのですが、こういった形で現れるのかと、愕然としました。

会話がこの調子なので、読み書きなどは、中央学園に通っていないければ、衰退どころかおぼえる事もままならない状況になったと思います。今では、日本語の宿題を教えているときが一番の一家団欒になりつつあります。それも最近では他人任せになる事が多いし、修羅場になる事も少なくありません。しかし、いつか日本のおじいちゃんやおばあちゃん漢字を交えての文通ができるようになればいいなと願ひ、頑張っている毎日です。

これから先、何年お世話になるかわかりませんが、最近まれに見る日本人顔の我が子達に合う日本語の教育を、引き続きお願いしたいと思っております。

そして、今まで辛抱強く教えて頂いた先生方に、感謝の気持ちでいっぱいです。

## 十周年に寄せて

小学四年保護者代表 足立 季實子

中央学園が出来てから十年という事は、丁度悠人と桂太が生まれた年と同じです。そう思うと本当に色んな事のあった長い時間であっただろう事が実感できます。おめでとございます！

うちの双子がお世話になったのは五歳の時で、ひらがなをどうやったら覚えさせられるだろうかと不安に陥っていた時に、絵のついたカードで遊びながら、でもしつかり覚えられるとゲルマーともこさんに誘っていたきました。こわがりの子供達が付き添いがいないと行きたがらないので、丁度勉強の機会にもなるしと、父親のオリーがよく一緒に教室で授業を聞かせていたでいて、あつかましく申し訳なかつたと思ひ返しています。

概してハーフの子供達は、ご両親が日本人の家庭に比べて、自由奔放の傾向にあるように見受けられますが、うちの子供達は特にそうで、少人数のきりん組でカードであてっこしながらひらがなを覚えられたのは、本当に大成功で有り難く感謝しております。この覚え方に代表されるように、中央学園がフレキシブルなやり方で勉強の方法を發展させている所が、少人数クラスのプラス面と相まって、お蔭様で悠人と桂太もここまで付いて来られた訳であり、この学園の素晴らしい

所と思います。また幼稚部が年齢別に細かく分かれてそれぞれにあったプログラムを組んでいるのも頼もしいすごい事だと思います。子供達がドイツの学校のお友達、中央学園のお友達、近所や剣道のお友達、フィナンランドや日本のお友達に恵まれ幸せに育っているのが私達の何よりの喜びです。これからも年齢を超えた中央学園のお友達と日本語を共に学んでいって欲しいと願っています。

### 十周年に寄せて

小学五年保護者代表 小泉 なつ代

中央学園創立十周年おめでとうございます。当時生まれた子は現在十歳、十歳だった子は二十歳、三十歳は四十歳等々子供達も先生方、それに父母までプラス十年も年と経験を重ねる。

振り返ると十年の間になんと様々なことがおきたのだろうか。やはり今年十歳になる息子は、学園にお世話になりはじめもう五年半。当時日本から移りたてで、ベルリンであいうえおと読み書きを学ぶのが、親子共々新鮮だった。現在の校舎に移る前の様子は体験できなかったものの、それ以前の大変な開拓時代はどんな風だったのか想像もつかない。

これから十年後、皆どこでなにをしているのか。これから学園にどんな新入生がやってくるのだろうか。そして我が子はどのくらい日本語に熱をいれてくれるのだろうか。これからもさらに、楽しくダイナミックな学校に成長し続けていって下さい。

### 開校十周年に寄せて

小学六年保護者代表 ザイツ 貴世

ドイツ留学中に知り合った夫と渡独後一年目に結婚し、その後すぐに一人目、一年後に二人目と娘を授かりました。子供達を二ヶ国語で育てるといふ確信は持っていたものの、ドイツ語も日本語も中途半端な我が子の言語の発達を目の前にして、母としてプレッシャーを感じる毎日でした。

そんなある日、家から歩いて五分のテンペルホーフの小学校で、日本語補習校が開校するという記事を、日本人情報誌で偶然目にしたのが中央学園との出会いでした。

異国の地で自分と同じ思いを抱えて子育てに励む父親、母親と出会えたときの感激は、今も忘れられません。

娘達も今年で小学校五年生と六年生。今まで続けてこられたのはもちろん本人達の努力もあります。先生方の熱意ある御指導と、魅力的なお人柄の力が大きかったと思います。この場をお借りして、心からお礼を申し上げます。

### 生徒代表から

私達のふるさと、中央学園

高校二年 相賀 頌子

中央学園は、私にとって何なのだろうか？とふと考えてみた。目を閉じるとそこに映るのは、今まで出逢ってきた仲間や先生、習って

きた授業、運動会、合宿、学習発表会など、楽しかったこと、辛かったこと、たくさん見えてきた。

先日、この卒業生が学校を訪れ、一緒に授業を受けてくれた事があった。その時、私は、懐かしさと嬉しさに心が溢れ、「お帰り！」と言ってしまった。また、私の兄が二年ぶりに日本から帰ってきて、みんなと会った時も、昔、みんなが授業を受けていたあの頃に戻ったような気がした。

この学校には、二つの国の境にいる私達の気持ちを共感し合える仲間がいる。だから、どんなに外で嫌な思いをしても、ここはいつも忘れてしまうくらい心地のいい場所だ。さらに、立ち止まらないように一生懸命、背中を押してくれる先生方がいる。だからこそ、今の私達がいる。

私は、創立時に小学校一年生として入学したので、まさに中央学園と共に成長してきた。そして、中央学園はいつのまにか私にとって、かけがえのない「ふるさと」になっていた。

ここを卒業して、どんな環境の中に身をおいたとしても、中央学園はいつものように温かい大きな手で包んでくれる場所として、変わらず待っていてくれるだろうと、私は確信している。いつでも帰ってこられる場所「ふるさと」がある私達は、本当に幸せだと心から思う。



II 短信 II

- 「合宿」実施  
(七月七日〜八日 ポツダムにて)
- 「運動会」開催  
ご来賓 (九月八日)  
ベルリン日本人国際学校より  
川崎 信幸 校長  
ベルリン日本語補習授業校より  
藤岡 華子 校長
- 「教科書・下巻」受領 (大使館にて)
- 「安全対策連絡協議会」  
(十月十一日 大使館にて、  
校長・理事長 出席)
- 「ベルリン婦人の会」  
(十月二十七日 理事長出席)
- 「学習発表会」開催  
幼稚園 (十一月十七日)  
小学部以上 (十一月二十三日)
- 「創立十周年記念式典」開催  
(十一月二十四日)
- 「小正月会」実施予定 (二月十九日)
- 「第二回 漢検」実施予定 (二月二十六日)



II 寄付・その他 II

- 運動会物品貸与：ベルリン日本人国際学校
- 運動会ビュッフェ：会員の皆様
- 書籍・ビデオ：会員の皆様
- ボールペン：後藤裕起子様 (正会員)
- カーテン：丹治由紀子様 (正会員)
- 現金十五ユーロ：内山佳代子様 (正会員)
- クロスケーブル：Christian Kulker 様
- Tober&Co GmbH  
Steuerberatungsgesellschaft  
Lohnsteuerabrechnung für den Angestellter
- 寄付金 (マイクロホンセット購入用)  
小栗つかさ、近藤崇子、岩永和幸、内山佳代子、ペーター・ルーゲ、小泉なつ代、水谷恵子、斉藤史緒、小飼志保、ザイツ貴世、大井裕見子、山本佳代、高野直、相賀由美子、ザイラー瑞恵、丹治由紀子、足立季實子、日高恵、日高ハナ、ゲルマ―知子、渡辺洋美、有馬昌美、スマス真理子、フェヒナー弘子、シュペネマン望、早川由未、レグナー直美、ギュンター律子、小宮尚子、平田稔、岡坊久美子、ウルリヒ・ポアマン、小林敏明、河野宏美、松田咲樹 (順不同、敬称略)

皆様方の「厚意に心より感謝申し上げます



あとがき

日本に帰国した際、バスの中で、小学校高学年ぐらいの子供が話している会話を、聞くともなしに聞いていた。休みの間の予定について話しているらしいのだが、なにやら話が咬み合っていない。「二日(いちにち)はおぼあちゃんの家に行く」「何日に行くの?」「だから一日(いちにち)」「ああ、〇月一日(いちにち)」。結局会話を「一日(ついたち)」という言葉は出ずに終わった。月の最初の日「ついたち」!

日本で生まれ育ち、普段から日本語だけで考え、話している子供たちでさえ「こうなのだ。二つ以上の言語で考え、話している当校の子供たちが「〇月一日(いちにち)」と言っても仕方がない。

しかしあきらめたわけではない。要は繰り返しの話。子供が間違えた言葉を話せば、教師や親はその都度、正しい言葉に直してやる。周りのたゆまぬ努力が、いずれ彼らの正しい日本語を導くと信じて。(きん)

共益法人  
ベルリン中央学園  
補習授業校

校舎 c/o Comenius-Schule  
Gieselerstr.4  
10713 Berlin

連絡先

電話: +49(0)30 8639 4196

FAX: +49(0)30 8639 4197

E-mail アドレス:

webmaster\_chuogakuen\_de  
@yahoo.co.jp

ホームページ

www.chuo-gakuen.de